

[COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>  
E-mail:comm.tko@nsk.org  
PHONE:03-3433-0987  
FAX:03-3433-8678  
Diocese Office



第42号

(通巻1277号)

2018年2月11日

編集：広報委員会

委員長：渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18



# 教区合同堅信式 ・新年礼拝



1月13日(土) 14時から聖アンデレ主教座聖堂で教区合同堅信式と新年礼拝が執り行われた。出席者は約170名。7教会17名の方が堅信を受けられた。

広田勝一管理主教は説教の中で、出エジプト記3章12節の「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそわたしがあなたを遣わすするしである」というみ言葉から「私たちは、この神から遣わされる小さな使者であり、民の痛みや苦しみを聞き、降ってきて共に歩まれる神から押し出され派遣される者である。神はその派遣の背後にしっかりと立ち、私たちを見守り共に歩む神である」と語り、遣わされた者として歩みを踏み出す新たに堅信を受ける人たちに向かって「イエスが洗礼を受けた時に天が裂け、神の霊が降ったように、大きな神の恵みが豊かに注がれるように」と祝福した。

神が必ず共にいる、その力強い言葉を信じて新たな年を歩んで行きたいと思う。

(広報委員会)

黙想 十字架の道行き

以前 ある司祭が「大斎は復活に向かうのではなく十字架へ向かうのです。大斎節のゴールは十字架であり受苦日なのです」と語っていました。私たちは復活の喜びの前に、十字架の出来事に深く心を留めたいと思います。

今回、祈りと黙想の助けとして、各教会にある「十字架の道行き」の写真と聖オルバン教会で使用されている式文を掲載させていただきました。大斎節の40日間を主イエスと共に十字架への道を心に刻みながら歩んでいきたいと思えます。

第1留 イエス、死刑を宣告される



夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。一同は、イエスを死刑にすべきだと決議した。ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。

かった。むしろわたしは死に渡さず、者のために彼を死に渡された

第2留 イエス、十字架を負う



イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれた。屠り場に引かれる小羊のように、毛を切る者の前に物を言わない羊のように、彼は口を開かなかった。屠られた小羊は、力、富、知恵、威力、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい。わたしたちの罪をすべて、主は彼に負わせられた

第3留 イエス、倒れる



キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執

行った。そのわたしたちの罪をすべて、主は彼に負わせられた。苦役を課せられて、かがみ込み、彼は口を開かなかった。わたしの民の背きのゆえに、彼は神の手にかかり、命ある者の地から断られた。わたしは虫けら、人ではない人にそしられ、民に侮られる

第8留 イエス、エルサレムの婦人を慰める



民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。」涙のうちに種をまく人は

第9留 イエス、三度倒れる



彼らは、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、苦いものを混ぜたぶどう酒をイエスに飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。彼らはくじを引いてその服を分け合った。それは、「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。彼らは食べ物として苦い草を与え、どの渴いているわたしに酢を飲ま

わたしは主の怒りの杖に打たれて苦しみを知らず。闇の中に追い立てられ、光なく歩く。主は陣を敷き、包囲して、わたしを疲労と欠乏に陥れ、大昔の死者らと共に、わたしを闇の奥に住まわせる。助けを求めて叫びをあげても、わたしの訴えはだれにも届かない。主は砂利をかませてわたしの歯を砕き、塵の中にわたしを打ち倒す。主よ、苦汁と欠乏の中で、貧しくさすらったわたしのことを覚えて下さい。

彼は子羊のように屠り場に引かれていった

第10留 イエス、衣をはがされる



彼らは、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、

第12留 イエス、十字架上で息をひきとる



悪を行う者の群れが迫りわたしたちの手足を縛った。わたしはさらし者にされ、彼らはわたしを見つめる

しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

第4留 イエス、母マリアに出会う



おとめエルサレムよ、あなたを何にたどえ、何の証しとしよう。おとめシオンよ、あなたを何になぞらえて慰めよう。海のように深い痛手を負ったあなたを、誰が癒せよう。悲しむ人々は、幸いである。その人たちは慰められる。主があなたの永遠の光となり、あなたの嘆きの日々は終わる。

第6留 ベロニカ、イエスの顔を拭う



シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするためにと定め

せようとした

第11留 イエス、十字架につけられる



イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。そして、『その人は犯罪人の一人に数えられた』という聖書の言葉が実現した。

第13留 イエス、母の腕に抱かれる



道行く人よ、心して目を留めよ、よく見よ。これほどの痛みがあったろうか。わたしを責めるこの痛み。わたしの目は涙にかすみ、胸は裂ける。わたしの民の娘が打ち砕かれたから。「どうか、ナオミ（快い）などと呼ばないで、マラ（苦い）と呼んでください。全能者がわたしをひどい目に遭わせたのです。」

第14留 イエス、墓に葬られる



彼女が愛した人のだれも、今は慰めを与えない



められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。あなた自身も剣で心を刺し貫かれます。多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

第5留 キレネ人シモン、イエスの十字架を負わされる

人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。わたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからです。」

第7留 イエス、再び倒れる



彼が担ったのはわたしたちの痛み、彼が負ったのはわたしたちの痛みであった。わたしたちは羊の群れ、道を誤り、それぞれの方向に向かって



第14留 イエス、墓に葬られる

夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。この人がピラトのところに行くと、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。そこでピラトは、渡すようにと命じた。ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな垂麻布に包み、岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。神よ、あなたはわたしを死の国に見捨てられず、あなたを敬う人が朽ち果てるのを望まれない

いのちをつなぐ一食…を信じて

～日曜給食活動の現状と展望～

伊藤 裕元



日々、食事を摂ることが困難な路上生活者に日曜日の朝、主日礼拝の前、わずかな量ながらお弁当（鶏五目炊込み御飯）を差し上げていた浅草日曜給食活動…、教会活動と正式に位置づけられてから18年目を迎えている。

上野公園や浅草、隅田川沿いなどから歩いて往復小一時間もかかる近間とは言えない教会にやって来る野宿生活者たちのことを性別、年齢を問わず「おじさんたち」と呼んでいるのだが、10年余りも通い続けているおじさんたちも少なくはなく、「蔵前の教会さんのお弁当」と親しまれてきたようだ。

活動を始めた頃おじさんたちは精々二、三〇人。それが平成不況の煽りを受け次第が増えて、開始時間前に敷地内に入り切らず教会前の通りに並んでもらうほどになって（4年目、年間一回平均で3百人超え）、そ

となっている。

その間、活動にかかわる会員は次第に減ってしまっても高年齢化が顕著に。町会問題が悪化した頃「地元で歓迎されない働きでは参加できない」と離れていった人たちが、その後の活動安定期？になっても復帰して来ることはなく、若手への継承はできていない。毎週、他教会・学校などからの外部ボランティアに依存している状況で1、2名から数人の参加を得て何とかぎりぎりの人数で運営できているものの、おじさんたちが激減して炊出しなどしなくてもよい時代が到来するより先に、活動自体に教会パワーの低減、人的破綻が来るほうが先かも知れないと、憂慮せざるを得ない現状でもある。

活動源になるお米が長年、多方面、広域の個人・団体（近隣の匿名者、教区フェスティバルを含む）から無償寄付されてきていて資金面で行き詰まり活動に支障をきたすようなことはなかったのも、これまで継続し得た要因である。ボランティア、炊出し、献金

の各支援と合わせ献米支援には感謝するばかりである。教会の力は小さいが思いが一つになることで維持・成長してきたと言える。

配食数は前述2010年をピークに毎年、確実に減ってきているものの（昨2017年度は平均210食で集計を開始した2004年以降では最少）、格差社会が顕在化したままとあつては当初の目標通り、「一食だけのわずかであつても望んでいる人がいる限り、路上生活者が給食を買いに来なくても生活できる日まで、活動を通してすべての人の生活が健康で文化的なものとなるよう祈り、営み続ける」ことを確認し合っている。協働者・支援者に不確かな部分はあつても活動はまだ続くはずで、週に1回のわずか一食だけの提供、路上生活者の自立支援とはほど遠くそれがどれほどの足しになるのか…、活動当初から抱きつづけてきた設問なのだが、一食だけでも届けたいとの思いが働きを支えた。とうに、そのわずかな一食がおじさんたちの今を

生きる力になり、明日へいのちをつなぐ一食になっていることに気づかされているからである。

与えられたテーマをサブタイトルに併記したのだが、こうした活動に「展望」とはいささか酷な要請に思える。一日も早く活動不要の日が来ることを望みながらそんな社会の到来へ直接的な働き掛けをするでもない、非力な教会活動だと思わざるを得ない。しかしながら、これまでの活動から将来の課題というか遠来の願望というか…そうした設題はある。格差のない社会の実現、区行政の積極的な取り組みの具現、運営後継者の育成、他教会あるいは外部ボランティアとの協働運営、教区宣教の一環としての教区活動（浅草給食センターへの移行）、地元町会との協働運営、給食内容の充実、おじさんたちの教会参加増、などなど。いましばらく、ささやかながら祈りの表出、信仰の営みを紡いでいきたい。

（浅草聖ヨハネ教会信徒）

シリーズ 2017年⑥

最近思うことの一

ミカエル 諫山 禎一郎

このところ、「み言葉の礼拝」が、あちこちの教会で行われているようになってきた。

牧師の数が少なくなってきたので、聖餐式ができなくなってきたせいである。このようなことがあると、少し昔のことが思い出されてくる。

私は、立教大学に在学中にチャペルで受洗し、卒業後は住まいの近くの教会に行くように教えられた。それでBSA第8支部在籍で、2年下の水谷満君（卒業後、NHK勤務が長く、近年亡くなった）の勧めがあり、住まいの東横線元住吉駅から近い三光教会に転籍した。この教会は、イギリス聖公会SPGの設立になるハイ・チャーチ系の教会で、今井正道司祭（後の東北教区主教）が牧師であつた。当時は早朝礼拝、



10時半の礼拝、晩禱と一日に3回も聖餐式が行われていた。私は早朝か10時半の礼拝に出席していた。当時の三光教会は、女性たちが頭にベールをかぶり、カトリックさながらの姿であつたことを思い出す。近年この教会に行つたことがあるが、そのベール姿は無くなつていた。

それから数年後、結婚して多摩地域の日野市東豊田に住み、近くの八王子復活教会に転籍した。当時、伊藤堅逸司祭が牧師で、私の大学の1年上の佐藤徹司祭が副牧師であつた。この教会は、聖餐式の数が少なく、月に1、2回程度であつた。この理由は、伊藤司祭が受洗されたのが、幼い頃の故郷・広島県福山

の教会であり、ここはイギリス聖公会CMSの設立になる教会で、儀式反対の宗派で、その伝統を尊重されていたと思われる。その後、佐藤司祭が聖餐式増加に尽力されていたことを思い出す。次第に聖餐式数が増えてきた。このことは、八王子の年表の聖餐式数をご覧になると分かる。ここでは紙面の都合上、最小と最大数のみ記載すると、各々1970年 52回、1993年 175回である。同様な聖餐式数の少ない教会は、聖パウロ教会である。ここは、嘗て祭壇に十字架を掲げること反対などで有名なところである。プロテスタントに近い宗派・ロー・チャーチ系である。教会史を編集するには、その教会だけでなく、東京教区と管区の資料を調べられることを勧めたい。

（東京教区資料保全委員長・八王子復活教会信徒）

「司祭の心」

あなたが気づかないだけで神様もゲイも

いつもあなたのそばにいる

学研 2017年刊  
司祭 上田 亜樹子



と存在とご計画を、神様の目に美しいものとして創られた私たちの存在を、自然体で語りかける。本書は、その授業をとてわかりやすくまとめたものだと思ふ。性的マイノリティについて「上から目線で偉そうに教えられるのは嫌」と思っている人、自分はどうかわかっている人、そして最初のとっかかりとして何か読みたい人にとって、肩の力を抜き優しい気持ちで向き合えるオススメの新作です。

「司祭の心」と閉じてしまふ事もあるだろう。しかし、平良愛香さんの授業ではそんなことは起こらない。ひよつとすると履修登録していない学生も混じっているかもしれないが、殆ど満席となる立教大学500人大教室で行われる授業「キリスト教と現代社会（ジェンダー）」は、親しい友人と一緒ににお茶を飲むような口調で

# ようこそ東京聖マルチン教会へ



夏のファミリーキャンプ

朝のSS、子供達が少ない時も礼拝は守られます。聖餐式では、桜井房江先生の礼拝音楽メソッドを守り、皆の声を聴き合い、拍子も大切にします。時にハッとするような一体感を味わう事が出

マルチン教会は、プレハブ改装の教会らしからぬ建物ですが、何故かこの教会が大好きです。古く質素なのに落ち着いて、主日礼拝は私達にとって大切な時空です。かつて立教の子供達の主日礼拝の為、チャプレン桜井享司祭を中心に成増の旭幼稚園を拝借し58年前の1959年伝道所開始。その後、ときわ幼稚園をお借りし、祭壇作りの礼拝準備から最後の片づけまでという苦勞があり、自分達の礼拝堂をという強い願いが叶えられ、ここ板橋区徳丸に教会が与えられました。先人達の御苦勞と神様のお導きを思うと今でも感動いたします。今の教会を紹介しましょう。

ザー。地域の方と楽しく交流出来る場です。夏のキャンプ。涼しい湯の丸高原シャロームロッジで、大人も子供も聖書の同じ箇所を学び最後に寸劇、パーベキュー、池の平湿原ピクニックなど盛りだくさんのプログ



来ます。毎主日の愛餐会。婦人会が始めたもので、台所の仕事で沢山の喜びをもたらすことを実感します(初めての方、司祭様、信徒間の大切な交わりの場)。次に春と秋年2回のバ

ラムに思う存分解放されます。また、当教会出身の聖職者が現在4名奉職されている恵みにも感謝。大畑主教、涌井司祭(東北教区)、市原司祭(中部教区)、太田司祭です。さて、近年建物の雨漏り等の老朽化を機に、教会を見直し、この先どのような新しいマルチン教会を築いていくのか、信徒全体での懇談会を3年間続け、「宣教方針を立て、新しい土地で新しい教会を建てて、他教会と共に新しい出発をしたい。」という結論に至りました。かつて徳丸の地を与えられたように新たな地に向かつて。折しも大きな時代の流れ、次世代を見据えた教区宣教師体制の動きの中で、卓志雄司祭を中心に練馬聖方プリエル教会、池袋聖公会と共に3教会で話し合いが進められています。そして私達の愛したプレハブも近い将来その役目を終えようとしています。改めてその建物が粗末だった故に私達が受けた内のお恵みが大きかったことに気が付いて深く感謝し、新しいステップに向かつてマルチンの全てを主に委ねようと思

日本に戻ったらどのような働きをするのかと尋ねられることがよくありました。「主教が決めるのでわからない」と答えると、その答えを聞いた質問者たちは驚きと戸惑いが入り混じった表情を浮かべた後、決まって、「カトリック教会みたいだね!」と言うのでした。「人事は主教の専権事項」という台詞が、いつから日本聖公会の当たり前になったのか知りませんが、これは聖公会の当たり前ではありません。私は、本気で教会の再生を考えるなら、イングランド聖公会の衰退を押しとどめ、世界中で多くの教会の成長を支えている「伝統」を回復することが必要不可欠だと確信しています。そのためには、個々の教会の自立性を確保し、働き人の人選を各会衆に委ね、「新しい何か」が「下から」出てくるための環境を整える必要があります。しかし、そのような変化は、「教区が教会を成長させることはない」と認めなければ起こらないでしょう。(聖マーガレット教会牧師)

《信徒リレーエッセイ》  
高齢化の教会で私は…  
聖愛教会 栗田 典子

聖愛教会は4月から管理牧師体制となりました。とは言っても、もともと無牧の時が長かった私達に不安はありませんでした。又もとに戻るだけと思つていました。ところが現在は葬式はあるけれど幼児洗礼は久しく無い高齢化の教会です。私達は年をとりました。健康状態は思わしくなく、便利な今の機械は扱えない。信徒一人一人が何とか自分の出来る事を見つけて、一つ一つこなしていかなければ立ち行かないのです。

## シリーズ 宣教への取り組み⑤

### 英国聖公会の宣教、最近の歩み その2

司祭 塚田 重太郎



前回の寄稿の中で、C・S・ルイスが「新しいキリスト教」を語る司祭たちを批判し、イングランド聖公会の衰退と消滅を「予言」したことを紹介しました。「予言」という言葉を取って用いたのは、ルイスがウエストコット・ハウスで講演した1959年当時、イングランド聖公会の衰退はまだ始まっていなかったからです。今回はイングランド聖公会を含む西洋の聖公会の現状に触れます。そこには「ルイスの予言通り」と呼ぶに相応しい現実が広がっています。

「英国社会動向調査」と「英国投票研究」に基づく最善の統計よれば、2001年から2011年の10年間で、英国生まれのクリスチャンの数は530万(1週間にほぼ1万)減少し、このままのペースで減少が続いた場合、2067年には英国からクリスチャンがいなくなり、聖公会メンバーの教会離れは

更に深刻で、1983年には英国の人口の40%が聖公会に属していましたが、2014年には17%に下落、イングランド聖公会のメンバーは、2012年から2014年の2年間で、170万人減少しました。サウス・ウェールズ大学の数理社会学研究者で、ウェールズ聖公会のメンバーでもあるジョン・ヘイワードは、1950年代以降のイングランド聖公会、ウェールズ聖公会、スコットランド聖公会、そしてアメリカ聖公会の在籍者数と礼拝出席データの分析に基づき、より精度の高い将来予測を出しています。彼の分析によれば、イングランド以外の3つの聖公会は消滅危機ラインを大幅に超えており、2040年前後に消滅を迎えると見込まれています。消滅回避対策のためにこれらの教会に残された時間は、僅か10年です。

化が進むと教会は衰退する」という使い古された「公式」を繰り返したくなるかもしれませんが、しかしデータは正反對のことを示しています。世俗化の中心地と見なされている都市部に、急成長している聖公会の会衆が多く存在しているのです。例えば、ロンドン、エディンバラ、シドニーには大きく成長している会衆があり、シンガポール教区は全体として急成長しており、私たちがいた小さな都市アバディーンにすら、大きく成長している会衆があります。「世俗化」と教会の衰退に必然的繋がりがあるのではなく、ルイスが見抜いていた通り、世俗化に迎合する「新しいキリスト教」と教会の衰退とが直結しているのです。アメリカ聖公会の優れた歴史家、フイリップ・ジェンキンスが、「宗教教団の数的成長と成功は、リベラル・メディアからの好意的扱いに反比例する」との「公式」として表している通りです。

この3つの聖公会よりはるかに遅く、ほぼ確実に来世紀まで存続し、成長に向かつて再生する可能性もあります。彼は、イングランド聖公会の衰退にブレーキをかけている「ある要素」、あるいは「ある伝統」があり、この伝統の故に、イングランド聖公会は「再生の道」において、他の3つの聖公会よりもはるかに先を行っている」と指摘しています。

この衰退に歯止めをかけている「要素」、あるいは「伝統」とは何かということですが、敢えて言わずにおきますが、この伝統こそが、イングランドでもスコットランドでも、そして世界中で、多くの教会の成長を支えています。イングランド聖公会において、そして、数は多くないものの、スコットランド聖公会でも、この伝統に立つ教会が「新しいキリスト教」に抵抗し、成長することができたのは、個々の教会の自立性が高く、牧師の人選も各教会に委ねられているためです。

「東アジア地域礼拝協議会」について

司祭 市原 信太郎

昨年10月31日から11月1日の2日間にわたり、「東アジア地域礼拝協議会」が韓国・ソウル大聖堂で行われた。韓国・フィリピン・香港・日本からの4管区から参加者があった。日本からは小生が代表として参加した。

2009年以来、聖公会国際礼拝協議会 (IALC) の東アジアからの参加者間で、礼拝に関する地域ネットワーク設立の可能性が議論されてきた。2015年のIALCモントリオール総会以降この動きが急速に進み、今回参加した4管区すべてがこのネットワークの設立に同意したため、これを期に具体的な設立手続きに入った。

会議は、小人数の会合でもあり、今回のテーマであった「各管区の祈禱書の歴史」を互いに紹介し質疑応答を行うという、研究会形式で進められた。その中で、特に韓国・中国・日本の祈禱書は中国語の祈禱書を起源に持つという共通の歴史により、歴史研究を共同で行うことの意味が浮き彫りとなった。

今後、古い時代の祈禱書の対応表のようなものを共同で作成するアイデアなどが話し合われた。また、電子データの形で持参した祈禱書等のデータを交換し合えたことも有意義であり、すでに祈禱書改正が完了、または進行中である他の3管区の事情は、日本聖公会の祈禱書改正プロセスを考える上でも大変参考になった。また、ホストである大韓聖公会ソウル大聖堂のホスピタリティを特筆して感謝したい。

2018年の会合は日本で行うことがこの会議の中で取り決められ、現在東京を会場に10月31日より3日間の日程で開催する予定である。今回は、日本聖公会のホスピタリティを参加者

に感じていただけるよう準備を進めたいと思っている。また、講演会やシンポジウムは一般に公開して行うことも企画されている。ぜひひふるってご参加いただきたい。



宗教改革500年 カトリック・ルーテル共同記念行事に参加して

司祭 市原 信太郎

昨年11月23日、日本福音ルーテル教会・日本カトリック司教協議会共同主催による「宗教改革500年共同記念…

平和を実現する人は幸い」が、長崎のカトリック浦上教会(浦上天主堂)を会場に行われた。小生の参加報告は、すでに「管区事務所だより」第328号(2017年12月20日)に掲載していたので、本紙ではこの行事に参加しての感想を簡単に述べたいと思う。エキュメニズム委員として、教会間対話の席に加えていただ

いてそろそろ10年になる。しかし自身のエキュメニズムへの関わりはそれよりはるかに長く、高校生時代からのテゼ共同体とのつながりや、神学生の時にルーテル東京教会で実習させていただいたことなどを通して、様々な時や場所で、キリストを信じる多くの方々との出会い、共



に何かをする、共にいるという経験に根ざし、支えられている。今回の記念行事に参加して、それがエキュメニズムの本質ではないかという思いを新たに

した。今回、行事に参加したことそのものがありがたさもさることながら、めったに会えない大勢の知人や恩師に会場で再会することができたことの喜びや感謝、これは決して個人的な事柄ではないと思っ

て、自分自身もその中の一人として、福音を生きる者として、その場に集められたという出来事に他ならない。世界中に、福音を共に生きる仲間がいるという

こと。これこそが世界に広がる普遍的教会の本質であり、エキュメニズムはその経験そのものである。この行事を単なるお祭りにならないためにも、このよう

な経験を普段の教会生活の中で地道に重ねていくことの大切さを改めて感じた次第である。

次回 イースター号  
4月1日発行予定

ちょっと聖書、ときどきユーモア (三十五)

1. 大斎始日に

大斎始日礼拝で額にぬられた十字架の形の灰を、うっかり落とさずに帰ってしまった信徒が、途中であるおばさんに言われた。

「あら、あなたお正月でもないのに羽子板をして負けたんですか、額に墨で×印がついたままですよ」

2. 洗足式とは

牧師「みなさんは、イエス様が弟子の足を洗った“洗足式”というのを知っていますか」

信徒「はあ、キリスト教から足を洗う時にする儀式のことですか」

3. 気が利いてる

信徒A「洗礼のお祝いに、教会から聖書を貰ったんだけど、聖書と一緒に気の利いたものが添えてあったよ」

信徒B「いったい何を貰ったんだい？」

信徒A「拡大鏡」